

一般社団法人日本老年歯科医学会 2022年度第10回理事会議事録

日時：2022年12月9日（金）15：00～18：00

WEB開催

出席者

水口俊介、羽村章、片倉朗、上田貴之、池邊一典、山崎裕、會田英紀、菊谷武、戸原玄、古屋純一、吉田光由、松尾浩一郎、河相安彦、渡邊裕、大神浩一郎、菅野亜紀、柏崎晴彦、高橋一也、岩佐康行、平野浩彦、大野友久、阪口英夫（中座）、田中彰、糸田昌隆、越野寿、枝広あや子、金澤学
各理事（27名）

山根源之、森戸光彦 各監事（2名）

陪席者

鈴木啓之、竜正大、高橋利士、堀一浩、奥村拓真、尾立光、吉見佳那子、畑中幸子、高橋賢晃、日高玲奈、伊藤誠康、大久保真衣、渡邊理沙、川本章代、若杉葉子、吉岡裕雄、遠藤眞美、貴島眞佐子、豊下祥史 各幹事（19名）

櫻井 薫 山根 瞳 各名誉会員（2名）

欠席者

小野高裕、弘中祥司、服部佳功 各理事
古屋裕康、山添淳一、田中恭恵、白部麻樹、尾崎研一郎、森下志穂 各幹事

I. 開会の辞（片倉副理事長）

片倉副理事長より、対面での理事会の実施が叶わなかったことは残念ではあるものの、ご参集いただいたことについて御礼と、活発な議論への期待とともに、開会の辞が述べられた。

II. 理事長挨拶

水口理事長より、多くの協議事項があるが、時間を守りつつ慎重に審議を行っていくことが伝えられた。

III. 議長選出

定款第32条に従い、水口理事長が議長として選出された。

IV. 確認事項

1. 定足数の確認〔定款第32条、理事現在数（30名）の2分の1以上の出席〕
上田常任理事（総務担当理事）より、開会時点で定款第32条、理事現在数（30名）の2分の1以上の24名（開始時点）の出席があり、定足数を満たしていることが報告された。
2. 2022年度第7・8・9回理事会議事録（JSGプラットフォーム参照）
上田常任理事（総務担当理事）より、2022年第7・8・9回理事会議事録が確定した旨が報告された。お気づきの点などがあれば、会期中にご連絡いただきたい旨が依頼された。

V. 協議事項

1. 定款一部改正について（上田理事）

上田常任理事（総務担当理事）より、資料を用いて定款の一部改正について説明された。9月の理事会にて承認された定款一部改正（定款第7条、第16条、第32条、会費規則第4条）について、規程委員会にて検討し修正した内容の説明および修正文面の提示がなされ、理事会にて承認された。

2. 摂食機能療法専門歯科医師制度規則および施行細則の一部改正について（吉田理事）

吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）より、資料を用いて摂食機能療法専門歯科医師制度規則および施行細則の一部改正について説明された。

摂食嚥下リハビリテーション委員会として、摂食機能療法専門歯科医師を目指す会員に対するサポート体制を確立することを目的としている改正であることが説明（審査ポスター発表までに十分な指導を行える体制、実地研修を行う研修期間についての定義の明確化）され、実態に合わせた規則・細則の改正を規定委員会との協議の上、作成したことが報告され、理事会にて承認された。

阪口理事（規定委員会委員長）より、「摂食嚥下機能」と「摂食機能」の2つの文言が記載されているため、文言の統一を検討したほうがよいのではないかとの意見が規程委員会内にてあったことが報告され、水口理事長より現在使用している「摂食機能」という文言も、嚥下を包含したものであるという認識であり、摂食機能療法専門歯科医師の設立経緯などを考慮した上で、「摂食嚥下機能」と「摂食機能」と記載をともに使用していくこととしたい旨が説明された。

吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）より、摂食機能療法専門歯科医師は、摂食機能療法に対して専門的に対応を行える歯科医師を育成することを目的としたものであることが説明された。摂食機能療法を実施するには、嚥下も含めた知識が必要であり、摂食機能療法専門歯科医師として習得すべき内容として、摂食嚥下機能、摂食嚥下障害は必要不可欠であることから現状の規則細則の記載となっていることが説明され、「摂食嚥下機能」という文言は、「摂食機能」と比較して一般的であることから、このまま記載を維持していただきたい旨が依頼された。

阪口理事（規程委員会委員長）より本理事会にて議論を行った上で、「摂食嚥下機能」、「摂食機能」を共に明記するという結論が得られ、会員へも正しい情報提供ができると考えられるため、このままの記載で継続するとの説明があった。

櫻井名誉会員より、水口理事長が述べた認識で間違いなしとの説明があった。

事務局より、制度の施行のタイミングについて説明があり、現状は「申請から1年間」という形式になっているが、今回の改正に伴い、「座学を修了してから1年間」と変更になることから、会員への周知が必要となることが説明され、吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）より、次号の老年歯科医学に、本内容について記載し会員に周知する旨が報告された。

3. 専門医および指導医 新規認定について（柏崎理事）

柏崎理事（認定制度委員会委員長）より、資料を用いて専門医および指導医の新規認定について説明された。

専門医は新規9名、指導医は新規2名が、審査の結果合格基準に達していると判定されたことが報告され、それぞれの新規認定が理事会にて承認された。

4. 第36回学術大会大会長について（水口理事長）

水口理事長より、第36回学術大会大会長について、東京歯科大学口腔病態外科学講座 片倉朗教授（副理事長）を大会長に推薦したい旨が提案され、理事会にて承認された。

片倉副理事長より、大会長選出の御礼とともに、学会開催への意気込みと盛会となるよう理事の方々にもご協力いただきたい旨が述べられた。

5. 学術大会 事後抄録の廃止について（小野理事）

堀編集委員会幹事より、学術大会における事後抄録の廃止について、資料を用いて説明がなされた。

事前抄録と事後抄録との間に大きな違いがある現状、事後抄録を学会誌に掲載するためには高額な費用が必要であることなど、事後抄録を学会誌に掲載するメリットよりもデメリットが大きな状況であることから、事後抄録の廃止を提案した旨が説明され、理事会にて承認された。

水口理事長より、事後抄録が廃止された場合には、事前抄録を保存しておく必要が出てくるため、保存する形式に関しては今後検討していくことが説明された。事務局より、事後抄録を廃止の時期が確認された。協議の結果、第34回学術大会より事後抄録を廃止することが承認された。

6. その他

特記事項なし

VI. 報告事項

1. 会務報告（水口理事長）

水口理事長より、総合歯科専門医（日本有病者歯科医療学会、日本障害者歯科学会、本会の3学会合同で申請検討中）についての進捗報告がなされた。

各学会より、共通研修に関する案を提案していただいたものをブラッシュアップしており、来週の会議にて決定する予定であることが報告された。今後、具体的な認定方法などを含めて検討していく予定であることもあわせて報告され、今後報告できる内容があれば、逐次共有させていただきたい旨が報告された。

2. 総務報告（上田理事）

上田常任理事（総務担当理事）より、資料を用いて学会会員人数やその変化、会員構成などについて説明され、あわせて今後の会議スケジュールについて説明された。

3. 学術報告（総会資料参照）

1) 学術委員会報告（池邊委員長）

池邊常任理事（学術委員会委員長）より、資料を用いて学術委員会活動について説明がなされた。多施設共同研究支援クラウドに関しては、2023年3月末に終了する旨が報告され、口腔機能低下症アプリ（EXAM-7）については、今後継続審議とすることが報告された。

2) 口腔機能低下症ワーキンググループ（池邊委員長）

池邊常任理事（学術委員会委員長）より、資料を用いて説明がなされた。

口腔機能低下症の診断項目において、舌圧、咬合力、咀嚼能力、ODKの4項目がフレイル・サルコペニアとの関連が認められたことが報告され、口腔機能低下症のカットオフ値（舌圧とODK）を変更するとオーラルフレイルとの整合性が認められた（オーラルフレイルに関しては、オーラルフレイル合同ワーキングにて協議中）ことが報告された。

オーラルフレイル合同ワーキング（日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会、本会の3学会合同）においての協議事項について説明がなされ、多職種が利用可能であることを念頭にいた形で、アンケート（ODKなどの検査を含まない）を用いてオーラルフレイルをスクリーニング（咀嚼困難感、嚥下困難感、口腔乾燥感、自己申告による歯の数、滑舌に関する自己評価の5項目により）していく方向性で議論が進んでいることが報告された。

2023年3月末に合同ステイトメント発出、6月の老年学会でのシンポジウムの実施を行いたいと考えていることから、今後理事会にて議論をしていただきたい旨が説明された。

平野理事（オーラルフレイル合同ワーキングメンバー）より、来年の学会までの間に、変更点に関して理事および会員への変更の経緯や詳細に関して説明する機会（行政に対しても）を設けていただくことが望ましいことが提案され、水口理事長より、本学会からオーラルフレイル合同ワーキングに参加していただいている、池邊常任理事、上田常任理事、平野理事を中心となって説明会を実施する適切なタイミングを検討していただきたい旨の依頼がなされた。

菊谷理事（第34回学術大会大会長）より、オーラルフレイル・口腔機能低下症の変更、3学会合同ステイトメントについては、第34回学術大会での合同シンポジウムが一般会員などに向けた提案する場となる可能性が高いかとの確認があり、平野理事（オーラルフレイル合同ワーキングメンバー）より、オーラルフレイルは3月末にはステイトメントが出る可能性が高く、それを受けて第34学術大会や、IAGGのシンポジウムで提案する場となると予想されることが説明され、理事および会員に対して概要に関しては事前に周知する場を設けていく必要があると考えていることが説明された。

3) 第33回学術大会（小野大会長）

堀幹事（第33回学術大会準備委員長）より、第33回学術大会への参加の御礼とともに、開催報告がなされた。収支報告については、新潟市の助成金などを含めた調整がまだ必要であるため、3月の理事会にて報告する旨が説明された。

4) 第34回学術大会（菊谷大会長）

菊谷理事（第34回学術大会大会長）より、第34回学術大会開催概要について説明がなされた。特別講演として、4講演（米山武義先生、市橋亮一先生、清水俊夫先生、箕岡真子先生）を予定していることが報告された。

各委員会へのシンポジウム企画のご提案の依頼（期日は12月15日）が改めて行われた。

松尾常任理事より、シンポジウム企画の提案をする上で、枠がどの程度あるかの確認がなされ、菊谷理事より、すべての委員会からの提案を受け付けることは可能（時間等の調整は必要であるが）との回答がなされた。

松尾常任理事より開催方式に関する確認がなされ、菊谷理事よりリアルタイムはなくオンデマンドは実施する予定である旨が報告された。

渡邊理事より、日本歯科専門医機構の「共通研修」に申請できるもの（医療倫理など）があれば、お伝えいただきたい旨の依頼がなされた。

菊谷理事より、会場が限られているため、一般口演の演題数は制限される可能性があることが説明された。

5) IAGG-AOR2023（池邊、小野、松尾 各理事）

松尾常任理事（渉外委員会委員長）より、IAGG-AOR2023の開催概要について説明がなされ、公募シンポジウムへの応募にご協力いただきたい旨、一般演題についても募集している旨が報告され、参加登録費に関しては、日本語版から登録いただくように依頼がなされた。

6) 第35回学術大会（山崎大会長）

山崎常任理事（第35回学術大会大会長）より、第35回学術大会の開催概要について説明がなされ、多くの方にご参加いただきたい旨が説明された。

7) 令和3・4年度 日本歯科医学会プロジェクト研究 中間報告（大野理事）

大野理事（病院歯科委員会委員長）より、3つのプロジェクト研究の進捗状況について口頭にて説明された。

- ①病院歯科委員会委員所属の多機関共同研究→データ採取中、今年度中に解析終了予定（来年度論文化）
- ②常勤歯科医師の有無による二施設間比較研究→データ採取中・解析終了（来年度論文化）
- ③歯科がある病院の院長に対するアンケート調査→データ採取・解析終了（和文論文を作成済み、老年歯学に投稿予定）

8) その他

特記事項なし

4. 編集報告（小野委員長）

堀編集委員会幹事より、資料を用いて編集委員会の活動報告がなされた。

会員からの論文投稿も比較的安定しており、編集・発行作業も順調に進んでいること、総説論文についても著者の協力により順調に進んでいることが報告された。

来年度は、事後抄録の廃止および歯科衛生士関連委員会と連携して論文の書き方などのブラッシュアップを歯科衛生士に対して図れるような企画の検討を行い、論文投稿の間口を広げていきたい旨が説明された。

5. 財務報告（山崎委員長）

山崎常任理事（財務委員会委員長）より、資料を用いて財務状況、予算執行状況に関する報告がなされた。

6. 各種委員会 2022 年度活動中間報告

1) 教育委員会（會田委員長）

會田理事（教育委員会委員長）より資料を用いて教育委員会における活動報告がなされた。
老年歯科医学教育の実態に関するアンケート調査（COVID-19 の影響や、老年歯科医学教育基準の改定などあり）を実施したい旨が報告され、アンケートについては、各大学の学長、歯学部長に依頼し、回答者を推薦して頂く予定でいることが報告された。
アンケート内容については、今後理事内にてメール協議をさせていただきたい旨が説明された。
アンケートを実施する上で、JSG プラットフォームの利用を検討したい旨が説明された。

2) 社会保険委員会（菊谷委員長）

菊谷理事（社会保険委員会委員長）より資料を用いて社会保険委員会における活動報告がなされた。
診療報酬改定に向けた医療技術提案書作成に関するワークショップを実施し、その成果をまとめていることが説明された。
提案する医療技術名に関してはまだ確定していないため、委員会内にて審議した上で、今後理事内にてメール協議をさせていただきたい旨が報告された。

3) ガイドライン委員会（戸原委員長）

戸原理事（ガイドライン委員会委員長）より資料を用いてガイドライン委員会における活動報告がなされた。
「急性期脳卒中の口腔管理に関するガイドライン」は現在改訂中、「生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理に関するケアガイドラインおよびマニュアルの整備に資する研究」については、CQ の決定が終了したことが報告された。

4) 在宅歯科医療委員会（古屋委員長）

古屋理事（在宅歯科医療委員会委員長）より資料を用いて在宅歯科医療委員会における活動報告がなされた。
終末期歯科医療におけるステイトメントを来年の老年歯科医学に報告することを予定している旨、歯科訪問診療の現状を把握し情報のニーズを把握することを目的に、主たる対象を会員として（会員以外も回答可能）アンケート調査を実施することを予定している旨が報告され、修正点などあればご連絡いただきたい旨が説明された。
平野理事より、終末期歯科医療におけるステイトメントに関してどのようなイメージで出すことを検討しているかとの確認があり、古屋理事より、第 33 回学術大会において実施したシンポジウムをもとに、本学会としての立場表明という形式でステイトメントを出すことを検討していることが説明された。
歯科訪問診療に関するアンケート調査の内容と年度内に実施する旨が説明された。

5) 摂食嚥下リハビリテーション委員会（吉田委員長）

吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）より資料を用いて摂食嚥下リハビリテーション委員会における活動報告がなされた。（摂食機能療法専門歯科医師制度規則および施行細則の一部改正について参照）

6) 渉外委員会 (松尾委員長)

松尾理事 (渉外委員会委員長) より資料を用いて国際渉外委員会における活動報告がなされた。台湾老年歯科医学会との連携、ヨーロッパ老年歯科医学会との連携について説明がなされた。台湾老年歯科医学会においてトラブルが生じたため交流はペンディングとなっていることが説明された。

2023年 ECG については9月にストックホルムにて現地開催予定であり、詳細が分かり次第、共有させていただく旨が説明された。

7) 広報委員会 (河相委員長)

河相理事 (広報委員会委員長) より資料を用いて広報委員会における活動報告がなされた。第33回学術大会と同様に、第34回学術大会においても学会キャラクター (ご当地ものなど) を利用して広報していきたいと考えていることを検討している旨が説明された。各理事の先生には第34回学術大会までのカウントダウン動画 (写真も含む) へのご協力依頼がなされた。

SNS (Twitter, Facebook など) を有効に活用した学会広報を実施していきたいことが報告され、他学会において実施された出張証明のパネルが提示 (SNS で発信されると学術大会の強力な広報となる、Yahoo ニュースにも掲載) され、同様のものを第34回学術大会でも実施していきたいと考えていることが説明され、菊谷理事 (第34回学術大会大会長) と相談の上、検討していくことが報告された。

キャラクターのノベルティ (ぬいぐるみ、ボールペンなど) に関しても財務委員会と検討しながら、予算等を含めて検討していきたい旨、学会リーフレットの更新を行っている旨が説明された。上田常任理事より、ぬいぐるみの必要性について各理事への説明が依頼され、河相理事 (広報委員会委員長) より、座長席にぬいぐるみを置くことにより、ハイブリットの場合にはその画像が配信される形となり、広報効果が期待できると考えられるが、費用対効果も検討しながら必要性について検討していく旨が説明された。

8) 研修委員会 (渡邊委員長)

渡邊理事 (研修委員会委員長) より資料を用いて研修委員会における活動報告がなされた。当初の活動計画を変更し、オンライン Live 研修会を1回開催とし、高齢者医療臨床研修会 (糖尿病の基礎的な知識と歯科治療における管理)、オンライン歯科衛生士セミナーの開催を予定していることが報告された。

各委員会に対して、研修会企画への応募も検討していただきたい旨の依頼がなされた。

機構専門医を見据えて、歯科専門医共通研修会 (医療倫理、患者・医療者関係の構築、医療安全、院内感染対策、医療関連法規・医療経済のうち2分野の研修会) を実施する予定であり、学術大会中に1回、その他で1回を企画することを計画していることが報告された。

菊谷理事 (第34回学術大会大会長) より次回学術大会にて「共通研修」を実施した場合には、多くの方が参加する可能性が高いと考えられるが、学会会場のキャパシティやオンデマンドでの配信も検討すべきかの確認がなされ、今後検討を行うこととなった。

古屋理事 (在宅歯科医療委員会委員長) より、歯科麻酔科学会の共通研修を受講したが、オンデマンドでも受講可能であった旨が報告された。

河相理事 (広報委員会委員長) より、共通研修に関しては、試験が必要となるためにそのハンドリングが必要となることが説明された。

上田常任理事より、本学会が機構認定専門医を申請するということが正式表明しているわけではないため、会員の混乱を招かないように配慮する必要があることが説明された。

事務局より、「共通研修」を実施するためには、出席確認を厳格に行う (機構に参加者名簿を提出) 必要があるため、大きな会場であると困難となる可能性があること、オンデマンドの場合には、確認テストを実施する必要があるため、その準備についても行っていく必要があることから、研修委員会と協議しながら勧めていきたい旨が説明された。

9) 学術用語委員会 (大神委員長)

大神理事 (学術用語委員会委員長) より資料を用いて学術用語委員会における活動内容に関して報告がなされた。

老年歯科医学用語辞典の校正作業の進捗報告 (修正ゲラはプラットフォームにアップ済み)、カバー・内カバーのレイアウトの提示がなされ、2023年3月末の段階で2022年度会費完納している会員を対象に発送 (4月中に会員のもとに届く) することを予定していることが報告された。

発行部数に関しては、現状4500部を予定している (2022年12月1日時点での会員数: 4,209名) が、会員数、会費未納会員を考慮した上で、再度検討することが報告された。

10) 歯科衛生士関連委員会 (菅野委員長)

菅野理事 (歯科衛生士関連委員会委員長) より資料を用いて歯科衛生士関連委員会における活動報告がなされた。

特任 (老健事業) 委員会からの協力依頼があり、「介護保険施設における歯科専門職による口腔管理に関する調査研究事業」における、リーフレットと動画作成を行っている (年度内に完成予定) ことが報告された。

歯科衛生士関連委員会主催オンラインセミナー (講師: 片山陽子先生, テーマ: Advance care planning) を予定している旨が説明され、セミナー後にオンラインでの歯科衛生士交流会を計画していることが報告された。また、次年度の学術大会においてもACPに関するシンポジウムを提案していることもあわせて報告された。

認定歯科衛生士認定審査を実施し、8名の歯科衛生士を認定歯科衛生士として合格とし、日本歯科衛生士会に推薦する旨が報告された。書類審査において、申請書類の記載方法がわかりにくいことや実態にそぐわない部分が認められたため、次年度は様式などを整理修正した上で、認定審査を実施したい旨が報告された。

歯科衛生士研究支援ワーキングにおける歯科衛生士対象アンケート内容が提示され、そのアンケート結果をもとに教材作成などを行っていく予定であることが説明され、関連の委員会にもご協力いただきたい旨の依頼がなされた。

11) 認定制度委員会 (柏崎委員長)

柏崎理事 (認定制度委員会委員長) より資料を用いて認定制度委員会における活動報告がなされた。

認定医認定審査方法の一部見直しに関して、検討の進捗状況の説明がなされ、規則改正を行わず可能な対応 (認定医として習得しておくべき老年歯科の基本的な知識の確認) として、基本的な知識の確認テスト (多岐選択式, 専門医試験問題のプール問題を利用) に加えて、ポスター発表の質疑応答の結果から認定を行うこと、将来的な総合歯科専門医の動向を考慮して修正していくことが説明された。

専門医認定審査方法の一部見直しに関して、総合歯科専門医の認定審査要件に口頭試問が含まれる可能性を見越して、規則内に「口頭試問」の実施を明記した上で、記述式 (総合的な知識を問う) と口頭試問の結果から認定を行うこと、導入に関しては、「口頭試問」の導入を事前に会員に周知した上で、ある年度より新審査方法に移行することを検討していることが説明された。

水口理事長より、総合歯科専門医の認定方法に関してはまだ明確になっていないが、今の段階から準備を行っていくことが重要であり、実際の総合歯科専門医の運用に向けて協議を継続していきたい旨が説明された。

事務局より、認定医認定審査および専門医認定審査の変更を行うかどうかに関して確認がなされ、認定医認定審査の変更について今回提示された変更方法を基本として検討を行っていくことが理事会にて承認された。

12) 専門医試験問題委員会（高橋委員長）

高橋理事（専門医試験問題委員会委員長）より資料を用いて専門医試験問題委員会における活動報告がなされた。

今後の認定医の審査方法変更を見据えて、今までのプール問題から基本的な問題の抽出を勧めていく予定でいることが報告された。

13) 地域包括ケア委員会（岩佐委員長）

岩佐理事（地域包括ケア委員会委員長）より資料を用いて地域包括ケア委員会における活動報告がなされた。

地域包括ケア委員会の目標として、訪問歯科や地域包括ケア・食支援の思想を会員と共有していくことと設定し、関連委員会と連携しながら委員会活動を行っていく旨が説明された。

ICT を用いた連携の情報適用や、多職種連携に役立つ用語集の作成を検討している旨が説明された。

14) 支部運営委員会（平野委員長）

平野理事（支部運営委員会委員長）より資料を用いて支部運営委員会における活動報告がなされた。

第33回学術大会時に支部長会を実施（Covid-19の影響により中止になっていたが）、第34回学術大会時にも同様に支部長会を実施する予定でいることが報告された。

15) 病院歯科委員会（大野委員長）

大野理事（病院歯科委員会委員長）より資料を用いて病院歯科委員会における活動報告がなされた。（令和3・4年度日本歯科医学会プロジェクト研究中間報告参照）

社会保険委員会との連携（ワークショップへの参加）、外部組織（回復期リハビリテーション病棟協会、日本リハビリテーション病院・施設協会、日本病院歯科口腔外科協議会、日本有病者歯科医療学会）の連携を進めていることが報告された。

16) 表彰委員会（田中委員長）

田中理事（表彰委員会委員長）より資料を用いて表彰委員会における活動報告がなされた。

表彰時において提供している表彰楯は、各賞の特性や受賞者の特性を考慮した上で、見直しを検討することが報告された。

17) 規程委員会（阪口委員長）

阪口理事（規程委員会委員長）より資料を用いて規程委員会における活動報告がなされた。

規程の大きな改正を実施する場合には、可能な限り早い段階での報告もしくは事前の相談をしていただきたい旨が依頼された。

18) 倫理委員会（服部委員長）

委員長および幹事が欠席のため、倫理委員会における活動報告は資料をお読み取りいただきたい旨が説明された。

19) 倫理審査委員会（糸田委員長）

糸田理事（倫理審査委員会委員長）より資料を用いて倫理審査委員会における活動報告がなされた。

個別審査の案件については、十分な研究計画書が提出されていないことから、審査に時間がかかっている旨が説明され、可能な限り早急に対応する旨が報告された。

上田常任理事より、常任理事会からの提案として、書類受理より概ね1ヶ月程度で返答する（審査に時間が必要な場合にはその旨を申請者に伝える）など委員会でルールを作成していただくように依頼があった。

20) 利益相反委員会（越野委員長）

越野理事（利益相反委員会委員長）より資料を用いて利益相反委員会における活動報告がなされた。

学会役員等の COI 申告に対して、委員会委員、支部長において提出が認められない方もいるため、事務局を通じて提出依頼を行う旨が説明された。

21) 特任（認知症）委員会（枝広委員長）

枝広理事（特任（認知症）委員会委員長）より資料を用いて特任（認知症）委員会における活動報告がなされた。

総合歯科専門医における研修プログラムについて検討（特に大学病院にて研修している会員がどのように認知症の人の歯科医療や支援を学ぶためにはどのような対応が必要か、認知症対応向上研修は都道府県歯科医師会が実施しているため大学所属の会員が情報を得ることができないなどの問題を解決することが必要）していく予定でいることが報告された。

22) 特任（老健事業）委員会（渡邊委員長）

渡邊理事（特任（老健事業）委員会委員長）より資料を用いて特任（老健事業）委員会における活動報告がなされた。

本日より、老年歯科医学会会員向けのアンケート調査（歯科専門職による口腔管理方法、個々の対象者のニーズ把握と目標設定、施設職員への具体的な指導方法など）を開始することから、ご協力をお願いしたい旨が説明された。

新型コロナウイルス感染症による口腔関連サービスの提供への影響に関する調査に関しては、12月1日付で全国の介護施設等 2000 施設にアンケートを郵送した旨が報告された。

歯科衛生士関連委員会、在宅歯科医療委員会と共同で、介護施設において円滑な口腔衛生管理に関わるサービス提供のための教材等の作成を実施している旨が報告された。

7. 日本歯科医学会報告（水口理事長）

水口理事長より、次回の日本歯科医学会総会に向けた準備が進んでいることが報告された。

4 学会合同（日本口腔衛生学会、日本小児歯科学会、日本歯科保存学会、日本老年歯科医学会）のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法に関するステイトメントが年明けには発表されることが報告され、遠藤幹事より、今回発出される推奨については WHO と FDI にあわせたものであり、日本歯科保存学会が求めている 5000ppm のフッ化物配合歯磨剤の認可を後押しするものとなっていることが説明された。

8. 日本歯科医学会連合報告（水口理事長）

水口理事長より、日本歯科医学会連合内で実施される臨床研究支援委員会のフォーラムに関する案内がなされた。

9. 日本歯学系学会協議会報告（羽村副理事長）

羽村副理事長より、日本歯学系学会協議会から日本歯科医学会連合に対して、歯学系学会の集合体を 1 本化することに向けた議論を開始する依頼がなされた旨が報告された。

10. 歯学系学会社会保険委員会連合報告（菊谷理事）

特別報告すべき内容はないことが報告された。

11. 日本歯科専門医機構（水口理事長）

水口理事長より、進捗があり次第、ご報告させていただく旨が報告された。

12. 日本老年学会報告（水口理事長）

水口理事長より、IAGG-AOR2023 に対するスポンサーシンポジウムを老年歯科から設定できた旨が報告された。

13. その他

・厚労科学研究 薬学的視点を踏まえた自立支援・重度化防止のための研究の協力依頼について (枝広理事)

枝広理事より、厚労科学研究（薬学系）についての概要が説明され、アンケート調査へのご協力の依頼がなされた。全学会員を対象として2回メールでの周知を行う予定であることが説明された。

山根源之監事より、活発な学会活動、委員会活動への激励のお言葉をいただき、予算を有効に活用していただきながらますます学会を充実していただきたいとお言葉をいただいた。

森戸光彦監事より、代議員選出の関する改正については困難が伴う事も考えられるが、ぜひ達成していただきたいとの激励のお言葉をいただくとともに、活発な学会活動を継続していただきたいとお言葉をいただいた。

山根瞳名誉会員より、活発な学会活動を継続していただき、次回の学術大会にて対面での活発な議論ができることを楽しみにしているとお言葉をいただいた。

菊谷理事（第34回学術大会大会長）より

第34回学術大会に向けてスポンサー集めに難渋していることから、各理事の先生方に改めて趣意書を出させていただくのでご協力いただきたい旨が説明された。

水口理事長より、スポンサー状況に関する情報共有をしていただきたいとの依頼がなされた。

VII. 水口理事長より

活発な議論への御礼と、来年も老年歯科の発展。高齢者の口腔の健康達成に向けて学会として邁進していきたいとの決意表明がなされた。

VII. 閉会の辞（羽村副理事長）

羽村副理事長より、活発な議論への御礼と、来年度からの新歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、「認知症患者の歯科診療を経験する」という点が、経験が望まれる重要な課題として認定されている（摂食嚥下リハビリテーションなどを含む、老年歯科医学に関わる内容が重要視されている）ことから、本学会が指導的な立場として、教育の面でも貢献できることを期待したい旨が報告され、来年の6月には対面にて活発な議論ができることを祈念するとともに、閉会の辞が述べられた。